Osaka University Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 岸田敬三 先生 ご逝去 |
| Author(s) | 中野, 元博 |
| Citation | 大阪大学低温センターだより. 1999, 108, p. 17-18 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/9326 |
| rights | |
| Note | |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

訃報

# 岸田　敬三　先生　ご逝去

平成11年９月13日朝、大阪大学大学院工学研究科教授、低温センター運営委員、岸田敬三先生が、ご病気ご療養先の大阪大学医学部附属病院でご逝去なされました。享年、61歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和13年に大阪府でお生まれになり、昭和32年に大阪府立住吉高等学校をご卒業、同年に大阪大学工学部精密工学科に入学、昭和36年に卒業後、大阪大学大学院工学研究科精密機械学専攻修士課程に進学され、昭和38年に修了されました。昭和38年大阪大学工学部精密工学科助手として奉職され、昭和45年助教授を経て、昭和57年教授に昇任され、材料力学講座を担当されました。工学部における平成７年度からの年次計画による大学院重点化改組に伴い、平成10年、大阪大学大学院工学研究科精密科学専攻教授に就任されました。

先生は、工学部において一般力学や材料力学の共通講義を担当されるとともに、大学院においては連続体力学、固体動力学などに関する教育と研究に努められました。また、平成８年より低温センター運営委員、平成10年から附属図書館吹田分館長を務められたほか、大学および工学部の多くの委員を歴任され、大学の発展にご尽力されるとともに、ヨット部の部長として学生の健全な人格育成に努められました。さらに、日本航空宇宙学会材料部門委員長、日本材料学会衝撃部門委員長、日本航空宇宙学会関西支部長など学会の委員も多数歴任されました。

先生は、永年にわたって、材料の高速変形と衝撃破壊の研究を遂行され、その成果は国際的にも高く評価されています。特に、高ひずみ速度下において、材料の動的応力－ひずみ関係を正確に求めるため、応力棒法に基づく衝撃試験法を開発され、金属の初期降伏領域におけるひずみ速度依存性やひずみ速度履歴効果の評価、応力波伝播の粘性減衰効果の精密測定などに関して多くの優れた研究成果を挙げられました。また、機器の高速化にとって重要な衝撃破壊に対する安全性評価の問題にいち早く注目して研究に着手され、物体の慣性力を考慮に入れた破壊の動力学に基づく材料の動的破壊じん性試験法を開発されて、ガラスやセラミックスなどの脆性材料の破壊強度に対する変形速度依存性を明らかにされました。

一方、連続フロークライオスタットを組み込んだ極低温衝撃試験機と低温センター吹田分室の極低温脆性試験機を用いて、材料の変形と破壊の強度を室温から液体ヘリウム温度において系統的に測定され、速度パラメータによって変形速度と温度の影響を統一して説明されるなど、低温工学の分野でも独創的な研究を遂行されました。最近は、宇宙開発の先端分野に目を向けられ、人工衛星軌道上の周回浮遊物であるスペースデブリとの衝突を地上で模擬するため、レーザー誘起衝撃波による超高速破壊現象の観

察に挑戦されるなど、材料の変形と破壊の動力学に関して我が国の先駆的研究をなされました。

以上のように、岸田敬三先生は、衝撃工学、動的破壊力学、低温工学、航空宇宙工学等の広範な分野において学術及び技術の発展に大きな業績を残され、また、広い学識と長期的な展望のもとに、たゆまぬ情熱を持って学生の教育、後進の指導育成、並びに学会・産業界の発展に多大の貢献をされました。

このように大阪大学大学院工学研究科の発展、低温センター、附属図書館の運営にご尽力くださり、研究者として、教育者として、輝かしいご功績を残された先生がこの世を去られたことは誠に大きな損失であり、大変残念でなりません。

ここに、謹んで、心からご冥福をお祈り申し上げます。

工学研究科　　精密科学専攻　中野元博